「一人一人に最適な透析」が利点

同一建物に「サ高住」も併設へ

医療法人社団三樹会
吉野・三宅ステーションクリニック
（鳥取県鳥取市）

院長　**中村 勇夫**先生

Isao Nakamura
1983年、鳥取大学医学部卒業、1992年、鳥取大学 医学博士。日本泌尿器科学会専門医、日本透析医学会専門医、厚生労働省認定臨床修練指導医、日本腎臓学会、日本排尿機能学会、日本老年泌尿器科学会、日本小児泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡学会、日本性感染症学会、日本脊髄障害医学会。

吉野・三宅ステーションクリニックでは、2012年度の診療報酬改定を受けてオンラインHDFを本格導入し、「一人一人にベストな透析」を提供できると手応えを感じています。2017年6月には、クリニックと同じ建物にサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）もオープンさせる予定です。その狙いは？ 院長の中村勇夫先生にお話を伺いました。

12年度報酬改定受け本格実施

当院は1991年、現在地から5キロほど離れた場所に開院した「三宅医院」が始まりです。現在の「吉野・三宅ステーションクリニック」は、宿泊施設を2011年に買い取り1階部分を改装したものです。わたしは2002年4月から勤務していますが、鳥取市内や周辺地域で高齢化が進んだと痛感しています。透析患者さんの平均年齢は14年間で急激に高まり、現在は65歳ほど。これに伴って透析処方もどんどん変化しています。

クリニックを移転させてからこれまでに、コンソールをオンラインHDF対応型の「NCV-2」「NCV-3」に切り替え、血液浄化フィルタなども「MFX-Eシリーズ」「FIX-Sシリーズ」にシフトさせました。

ただ、オンラインHDFの適用は、この段階では透析アミロイドーシスなどの患者さんに限られていました。そのため、一時期は対応を見合わせ、2012年度の診療報酬改定ですべての患者さんへの実施が認められたのを受けて、あらためて本格的に実施しました。現在は原則としてすべての患者さんをオンラインHDFの対象と想定し、実際には7割ほどに実施しています。

希釈量や透析液流量、希釈方法を患者さんごとに変更できるのがオンラインHDFの大きなメリットです。これによって、一人一人に最適な条件を提供できるようになりました。

希釈量は大体300mL/minがベースですが、患者さんの合併症に応じて調整するなどいろいろと試行錯誤しています。「なるべく短時間で済ませてほしい」というニーズにできるだけ応えるため、後希釈で対応することもあります。プログラムのバリエーションが豊富なので、透析を始める前にチェックを徹底し、トラブルが起きてもすぐ対応できるように、看護師一人当たりの患者さんの受け持ちは5人前後に抑えています。

IHDF、血圧コントロールに有効

オンラインHDF対応機を全台導入して4年。

正確な統計は取っていませんが、透析中の血圧低下の予防だけでなく、不均衡症候群やかゆみ、レストレスレッグス症候群といった合併症にも非常に有効だと感じています。検査値自体に大きな変化はありませんが、「足の痛みが和らいだ」「かゆみが減った」という患者さんが多い印象です。

IHDF（間歇補充型血液透析濾過）の設備も少しずつ整備していきます。現在は患者さん2人に実施しています。いずれも治療を始めると血圧が「ストン」と低下するタイプなので、最初に補液を多く設定し、除水量を少しずつ増やすようにしています。IHDFを始めてからは、極端な血圧低下はみられなくなりました。お年寄りは血圧のコントロールが難しいケースが多いので、これからはこちらを活用する場面が増えるでしょう。

フットケアにも力を入れています。当院には糖尿病から透析を導入された患者さんが非常に多く、末梢神経障害を併発するケースも増えています。本来は隠したいはずの足をあえてオープンにすることで、「足をきれいにしよう」という患者さんの意識を高めることができました。

2016年度の診療報酬改定で「下肢末梢動脈疾患指導管理加算」が新設されたこともあって、この4月からはABI（足関節・上腕収縮期血圧比）やSPP（皮膚灌流圧）の値を定期的にチェックし、必要なら専門的な治療を行える中核病院につないでいます。

同一建物に「サ高住」は県内初

宿泊施設だったころの客室フロアを今、改装しています。客室フロアはこれまで有効活用できていませんでしたが、改装後の2017年6月には2階部分に透析ベッドを12床整備し、全部で66床にします。そして、3～ 5階にはサービス付き高齢者向け住宅「樹の郷　にこふふ」を新たにオープンさせます。

月・水・金曜に3クールずつ透析を実施しているため、今は透析を終えた患者さんのための休憩スペースを確保し切れていませんが、増床後は病床の運営にもかなりゆとりが出てくるでしょう。

「にこふふ」は3階が13室、4階が10室、5階が12室。3階では要支援か要介護認定を受けている人を受け入れ、居宅介護支援事業所も整備します。「にこふふ」を新しく造るのも、患者さんの高齢化対策の一環です。透析のために通院するのが難しい独り暮らしのお年寄りを中心に入居していただき、1、2階で透析治療を受けていただくイメージです。

希望される患者さんはご自宅まで送迎していますが、他県など遠方から通う患者さんも多く、これにも限界があります。当院はJR鳥取駅からすぐなので、「にこふふ」に入居していただいたら通院のハードルを大幅に下げられるでしょう。

医療機関と「サ高住」を同じ敷地内に併設させた前例はありますが、透析施設と同じ建物に併設するのは県内でおそらく初めてです。実際に立ち上げてどうなるか。未体験の試みですが、今から楽しみです。

施設概要

外観

透析室

医療法人社団三樹会 吉野・三宅ステーションクリニック
〒680-0846 鳥取県鳥取市扇町176
理事長：三宅茂樹先生
名誉院長：吉野保之先生
診療科目：泌尿器科、内科、人工透析
透析ベッド数：54床（2017年1月現在）
TEL：0857-21-8825　http://stationclinic.com